

## 横浜市民ギャラリー「ハマ・キッズ劇場 2001 放課後のワンダーランド」 プレワークショップ・ワークショップ報告

### 1. プレワークショップ

7月23日から始まる「ハマ・キッズ劇場 2001 放課後のワンダーランド」のワークショップの前に、プレワークショップを行いました。

ワークショップは、衣裳、舞台、音楽、演技の4つのグループに分かれて行われ、参加者全員が顔を合わせる機会があまりありません。また、自分が参加しているグループ以外の参加者が何をやっているか知る機会もあまりありません。

そこでプレワークショップでは、参加者全員の顔合わせと、演劇の全体像がぼんやりとしてはいても、ある程度分かるようになるプログラムが行われました。

また、今回連携して行われる黒部での「ハマ・キッズ劇場」の参加者に、メッセージを送りました。



#### ● プレワークショップ1

「声を出して、身体を動かそう！」

演技指導の青山さんが中心になって、まず参加者全員で身体を動かしたり、声を出したりしました。

全員で輪になって手をつなぎ、青山さんが手を挙げるとみんなも挙げる、前に手を出すとみんなも手を出すなど、まずは身体を動かしてみます。

身体がほぐれたところで青山さん、山本さん（演出）、橋爪さん（音楽指導）を輪の中心にして今度は声を出してみます。その声にあわせて、講師の先生が動くので、こどもたちの声も知らず知らずのうちに大きくなっていきます。



#### ● プレワークショップ2

「音楽に合わせて手拍子、足踏みをしよう！」

身体も動き、声も出たところで、音楽を指導する越智兄弟が登場し、アフリカの太鼓を叩きます。リズムにあわせてこどもたちは手拍子、足踏みをします。



### ● プレワークショップ3

#### 「グループごとにポーズをとろう！」

身体もほぐれ、他の参加者とも息が合ってきたところで、今度はグループに分かれます。演技指導の青山さんが花咲かじいさんのように袋からばらまいた三角くじに、子どもたちが群がります。くじにはグループの数字がかかれていて、10のグループにわかれしました。そしてグループごとに話し合い、みんなに見せるポーズを考えて、発表しました。その後、衣裳を着るグループ、楽器を演奏してみるグループに分かれ、演劇に必要な体験をしました。



### ● プレワークショップ4

#### 「実際に舞台にあがってみよう！」

会場をアトリエから、28日の公演の舞台となる教育文化ホールに移しました。ここではまず舞台に上がり、どれぐらい大きい声を出さないと、後ろの人まで聞こえないのかを体験。そして次に、1つのグループの子どもたちに昨年のハマ・キッズ劇場で使われた衣裳を着けて登場してもらいました。そこにさっと中幕が上がって背景の舞台美術が出現。さっきまで何にもなかった場所があつという間に「演劇空間」となり、子どもたちから感嘆の声があがりました。

### ● プレワークショップ5

#### 「最後に黒部の「はまっこ」たちにメッセージを送ろう！」

今回の「ハマ・キッズ劇場」は、横浜単独ではなく、黒部の子どもたちと連携して行われます。その黒部の子どもたちから、横浜の子どもたちにあてて手紙とビデオでメッセージが届きました。ホールからアトリエへ戻った子どもたちは、絵や文章で思い思いの返事を書き、ビデオカメラに

向かっては「がんばろう！」との元気一杯のメッセージを送り、この日のプレワークショップは終わりました。



## 2. ワークショップ

演劇総合ワークショップの「ハマ・キッズ劇場 2001 放課後のワンダーランド」。このワークショップの特徴は何といても、演技のみならず、裏方とされる衣裳、舞台美術、音楽も含めて参加する子供たちに担ってもらう点です。総勢 76 人の子どもたちが、衣裳、舞台、音楽、演技の 4 つの班に分かれて、2001 年 7 月 23 日から 27 日までの 5 日間ワークショップを行いました。以下にそのレポートを掲載します。

### 衣裳班

今回のハマ・キッズ劇場では一番多い 30 名の子どもたちが参加しました。洋服を作るのが大好きな子、デザインしたい子などが集まりました。登場人物の性格をよく考えた後、その人をイメージして衣裳をデザインし、演技班の子どもたちが着られるように、かたちにしていきました。すてきな衣裳を完成させた後、本番当日には、受付や会場案内、場内アナウンスをし、演劇中には大きな布や懐中電灯を使って、波や雪を表し、舞台を盛り上げました。

- 参加者 30 人
- 指導 金井ひろみ(造形作家)

### 1 日目 7 月 23 日 (月)

**午前** 舞台美術班と合同でゲーム。数人ずつのチームに分かれて、動物の絵を想像で描く。なるべく実物に近く描けたチームから順番に景品のお菓子を選べる。



パーツをつけます

午後 登場人物のキャラクターをイメージして自由に服のデザインを描く。

## 2日目 7月24日(火)

午前 グループに分かれて、10人分の衣裳作り。模造紙に人型をとって、デザイン画をもとに絵の具、クレヨンで着色。

午後 演技班と音楽班の合同練習を見に行く。どの子の衣裳をつくるか練習を見ながらグループで話し合う。パーツをつくる。どの役の子に衣裳をつくるか決める。

## 3日目 7月25日(水)

午前 演技班の子どものサイズを採寸した後、それぞれの班で制作。

午後 原型作り。引続き制作。

## 4日目 7月26日(木)

午前 ミシンがけを中心に引続き制作。

午後 ペイント作業、試着、パーツに綿をつめるなど、制作のつづき。

## 5日目 7月27日(金)

午前 各班制作途中発表。その後引続き制作。

午後 演技班の人に作った衣裳が身体に合うかどうか着てもらう。自分が作った衣裳を人に着てもらい、うれしそう。その後制作。公演当日のアナウンス、受付、案内、紹介をする人を決める。舞台上でフィナーレの練習。



デザイン画をもとに制作



大王のかぶりものを作っています



ミシンがけ

## 舞台班

25名の作ることが大好きな子どもたちが参加しました。それぞれが45cm×45cmのダンボールをいろいろな形にくりぬいて、ペンキを塗り、アクリル板や折り紙をはって仕上げ、最後にそれをロープでつなげて完成しました。さらに今回の交流先の黒部市国際文化センター「コラーレ」の舞台は横浜の舞台の4倍近くもの大きさであるため、こちらで追加して使う舞台美術も作りました。本番当日には、受付や会場案内、場内アナウンスをし、演劇中には大きな布や懐中電灯を使って、波や雪を表し、舞台を盛り上げました。

- 参加者 25人
- 指導 日比野光希子(造形作家)



正方形のダンボールを切りぬき、白いペンキを塗ります

### 1日目 7月23日(月)

午前 衣裳班と合同でゲーム。

午後 ダンボールやアクリル板を切断して、いろいろな形のボードを作る。

### 2日目 7月24日(火)

午前 昨日作ったダンボールのかたちには折り紙を切って貼る。

午後 ダンボールを切ったり、ペンキを塗ったりする。2時から音楽班と演技班の練習を見学。

### 3日目 7月25日(水)

午前 引続き制作。折り紙、ダンボール、アクリル板などを使って、おのこの作品を作っていく。

午後 今までに作った作品をロープでつなげる。家のような大きい作品を組み立ててヒモをつける。大王の登場のシミュレーションを行なった。アクリル板にボンドで文字を描くのが流行ってきた。

### 4日目 7月26日(木)

午前 作ったダンボールをロープで7、8枚ずつつなげる作業。

午後 つなげたダンボールのたばを天井からつるして、作品がきれいに見えるように、長さ、順番などを調整。

### 5日目 7月27日(金)

午前 制作会場で作品の準備。

午後 公演会場のホールで作品を吊り下げて、音楽班と演技班の練習を見学。



ここから大王が登場します



並べる順番を考えます



完成した作品をつるしてみました

## 音楽班

11名の音楽の大好きな子どもたちが参加しました。見たこともない楽器を前に興味津々で、とにかく楽器にさわってみたかったワークショップのはじめから、公演の時にはすっかり楽器をつかいこなし、舞台を盛り上げていました。また、お話に出てくる鳥の声やお祭りの音など、先生がどんな音かな？と子どもたちに聞いたところ出てきたアイデアもたくさんありました。

- 参加者 11人
- 指導 越智義朗（音楽家）、  
越智義久（同）、橋爪貴明（同）



フィナーレの練習

### 1日目 7月23日(月)

さまざまな楽器を体験する。その中で、自分の好きな楽器を見つけ、みんなの前で音を出す。円形に並んで、みんなで音をまわし、一種のパート練習的なこともした。それぞれの楽器の特徴も少しおさえた。雪やロボットなど、台本に出てくるもののイメージに合わせて、音出しを行なった。その後、宇宙、土星など1つのイメージを個々の楽器で一緒に表現した。

### 2日目 7月24日(火)

トーンチャイムを中心に楽器を持って順番に音を出す練習。1週目は1つの音だけ、2回目は自由。次々にチャイムに合ういろいろな楽器を加え、子どもたちの順番を並べ替えながら練習。少し先生がシンセサイザーの音も入れ始めた。

### 3日目 7月25日(水)

午前 昨日の復習。その後他の部分で使う楽器と担当を決める。

午後 引続き練習の後、2時から演技班と合同練習。

### 4日目 7月26日(木)

午前 新しい台本に合わせて音出しを行なう。イスも本番に近い状態にした。演技班との合同練習で音を出すきっかけを明確にしていく。

午後 引続き、音楽班と合同練習の後、また音楽班だけにわかれ、台本を見ながらの音出し。最後は台本にきっかけを書き込んだ。

### 5日目 7月27日(金)

午前 ホール客席最前列に設けられた音楽班の子どもたちの席に楽器を準備。置いても通れるかどうかチェック。その後演技班と一緒に練習。

午後 合同練習。



この楽器を使ってみたい人手を挙げて



音を出す練習



フィナーレの練習

## 演技班

10名の子どもたちが参加しました。決まった台本に沿ってセリフを覚えていくのではなく、積極的にアイデアを出し合い、自分で考えたセリフを堂々と行って演じました。楽しさの中に厳しさも混じる公演までの約1週間を経て、いい舞台にしようという子どもたちの意欲が舞台に表れました。

- 参加者 10人
- 指導 中市真帆(劇団ひまわり)[アシスタント]、青山伊津美(演劇集団円)と俳優たち



舞台上で練習

### 1日目 7月23日(月)

午前 各自の名前をおぼえるためのゲーム。見えないドッジボール、なわとびで遊ぶ。

午後 台本にしたがって少しずつ役の練習。こどもたちからのアイデアはとても新鮮。少しずつ動きも出てきて動作も大きくなっていく。

### 2日目 7月24日(火)

午前 役の練習、構成。今日も活発にアイデアが出る。

午後 2時からほかの班の前で予行練習。他の班からの意見も聞く。

### 3日目 7月25日(水)

午前 セリフを追加したりしながら練習、構成。子どもたち自身で考える「宿題」も出た。楽しい発言がたくさんありました。

午後 引き続きセリフを練りながら練習した後、2時から音楽班と合同練習。セリフを音楽と合わせる。

### 4日目 7月26日(木)

**午前** 音楽班と合同練習。他の班と一緒に練習するのは良い刺激になっているよう。

**午後** 公演に向けて作戦会議。50分の大作になっているため、どこで時間を削るべきか？声が少し小さいのでは？笑いのシーンに改善すべき点がある…など。その結果少しずつ動きが洗練されていく。

**5日目 7月27日（金）**

**午前** 部分練習。なわとび、笑いのシーンなど。11時すぎからホールで練習。

**午後** 舞台美術の一部が取り付けられた舞台上で練習。衣裳あわせ。みんなとてもかわいい。通しげいこ。動きも声もどんどんよくなっていく。カーテンコール、並び方の練習。



練習風景



音楽班との合同練習。  
みんなで意見を出し合います。



衣裳あわせ